

ピースウィンズ・ショップから

東ティモール事務所の永井が テレビで紹介されました

先日「世界の村で発見!こんなところに日本人」というテレビ番組で、東ティモール事業が紹介されました。この番組は、世界のへき地にたった1人で住んでいる日本人のところに芸能人が赴き、なぜここに1人で住んでいるのか?を調査するという内容の番組ですが、今回はるばる東ティモールへ来てくださったのは、テレビドラマ「相棒」でおなじみの俳優・山西惇さんです。

大変な思いをしながら、ようやくピースコーヒーのふるさと、レテフォ木村に到着された山西さん。番組では“戦いの歴史に翻弄された国 東ティモール・その山深き村にいるたったひとりの日本人”ということで永井をご紹介いただき、永井がここにいる理由として東ティモールに対する熱い情熱、東ティモールコーヒーの未来、家族への想いを語りました。

コーヒーの精製や生産者の言葉などもご紹介いただき、番組をご覧になった方からコーヒーの注文、お問い合わせ、心温まるメッセージを多くいただきました。

スタッフ一同、さらに頑張る励みにさせていただきます。誠にありがとうございました。

テレビ番組で紹介された
PWJ 永井(右上)



東ティモール 応援キャンペーン 実施中

「クラウドファンディング」とは、ある目的、志などを達成するため、広く皆さんから資金を募る仕組みですが、現在、私たちは、PWJ東ティモール事務所のカンシウというスタッフを東ティモール人初のQグレーダー（ワインのソムリエのような役割）として育てるキャンペーン「人を育て、国を応援しながら究極に美味しい東ティモールピースコーヒーを飲もう！」を、クラウドファンディングサイト「きびだんご」で行っています。

今回は、金額に応じて、コーヒーの定期購入やコーヒーの苗の命名権、東ティモールのコーヒー生産現場を視察していただくツアーなどの「商品」を用意し、楽しくワクワクしながらお買い物していただく仕組みになっています。

しかし、本プロジェクトは9月15日の期限までに目標の100万円に達していないと未成立となり、実行することができません。皆さんのお協力で、ぜひ東ティモール人初のQグレーダーをPWJから輩出させてください。応援よろしくおねがいします！検索は「きびだんご 東ティモール」で！

ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

同封のご注文用紙をFAXまたはTEL:03-5213-4073まで

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

支援地レポート

フィリピン

昨年11月から行ってきた台風30号被災者支援は、レイテ島カリガラ町における住宅690軒の修復完了により、5月末に終了しました。住宅に加えて同町の保育園2園も修復し、学用品も配布しました。8月初旬には現地のパートナー団体から2人のリーダーを招き、東京と広島の計4か所で報告会を開催。自身も被災しながら支援活動を継続してきた現地NGOスタッフの声を届きました。



スリランカ

今年3月に開始した稻作農家・酪農家の生計支援事業の一つである、牛乳回収所兼直売所の建設が、今秋のオープンに向けて完成間近となりました。ここでは、協同組合が地域の酪農家から牛乳を回収・販売し、一部をアイスクリームなどに加工して直売所で販売します。組合メンバーは並行してビジネス研修を受講し、オープン後は自ら策定した事業計画を基に運営する予定です。

東北

復旧・復興工事が進む福島県や宮城県で、街灯が少ない通学路や消防団の詰所、学校の周辺に、ソーラー街灯を設置しています。復旧工事が完了するまでにまだまだ時間がかかる地域もあります。これまで、宮城県南三陸町目的です。これまで、宮城県浪江町に計61本を設置し、現在は同県楢葉町で設置を進めています。



ピースウィンズ・ニュース

peace winds
JAPAN

支援のプロを、
世界の現場へ

い支援の届け物き資にぐい村へ

—中国雲南省地震緊急支援—

森とトウモロコシ畑に囲まれた穏やかな村の風景は、地震で一変していた。木の柱と土壁でできた家は跡形もなく崩れ落ち、瓦や生活用具が散乱している。テントの配給が間に合わず、村人たちはわずかに残った建物に身を寄せ合う。川の対岸では大きな山崩れが起き、土砂が川の流れをせき止めていた。

8月3日、中国雲南省で起きたマグニチュード6.5の地震。死者は8日までに617人、被災者は100万人以上に達した。ピースウィンズ・ジャパン（PWJ）は、地震発生の翌朝の飛行機でスタッフ3人を派遣し、支援を始めた。

震源に近い魯甸県や巧家県の山間部は、標高2,000メートル近くの急斜面に集落が点在している。地震の揺れで土砂崩れが起きたり橋が落ちたりして道路が寸断され、被災地へのアクセスは困難をきわめている。

PWJは地震の3日後、まずカップめんやビスケットなどの食料をそんな村の一つに届けた。支援の拠点とした町から車で6時間走って一夜を明かし、8月6日の日の出とともに、険しい山越えの道なき道を、物資を背負って歩いた。通行止めがなければ車で5分、歩いても30分ほどの村へたどり着くのに、約3時間。スタッフを動かしたのは、「支援の届きにくいところへこそ、必要な支援を早く」という思いだ。住民によると、カップめんが空から一度投下されたが、海外からの支援はPWJが初めてだという。食料を手渡すと、被災者の顔から笑みがこぼれた。さらにその2日後には、160世帯分のふとんセットと菜種油のほか、シャツ、ズボンなどを配布した。

支援の対象とした4つの集落では、民家の約85%が倒壊し、人口600余のうち25人が亡くなかった。食料、テント、衣類に加え、台所用品や衛生用品などの生活必需品もまだ十分に届いていない。もともと貧しい人が多く住む地域で、中期的には住居の再建のほか、住民の収入の確保や子供の教育なども課題になってくるだろう。PWJは今後も雲南省の震災に対応した緊急支援を続ける予定だ。

左側の写真：PWJのスタッフが被災地で救援物資を届ける様子。右側の写真：倒壊した家屋の瓦礫。

ミャンマー 水・衛生事業開始1年



ミャンマーでは、1948年の独立直後から60年以上に渡り、中央政府と少数民族間で武力紛争が続いている。多くの難民が隣国タイに流出しています。部分的な停戦合意は結ばれていますが、現在、両者間ではさらに全国レベルでの停戦合意を結ぶべく、交渉の最終段階に入っています。そうした和平の流れを受け、近い将来に難民の人々が故郷に戻った際に必要最低限の生活の質を保てるよう、PWJは2013年9月から、多くの難民の出身地であるタイ国境近くのカレン州で水・衛生事業を開始しました。

言葉や「外国人」という制約の中で

ミャンマーでは事業を実施していく上で多くの制限があります。カレン州が紛争地域であるため、水のニーズ調査を実施する際には、毎度カレン州政府に調査を申請し、事業地の決定も州政府からの承認が必要となります。少数民族が実効支配する地域に関しては、安全確保などの観点から、事業を実施できないこともあります。外国人である日本人スタッフが現場モニタリングをする際は、毎回必ず計画の詳細を州政府に提出し、事前に承認を得る必要があります。

このような制限から、ニーズのある（と思われる）地域を漏れなく調査できないのが歯がゆいところですが、それでも情報収集できた範囲の中で、優先度の高い村から井戸建設・修繕を始めました。

村の中には自分たちの言語であるサゴー・カレン語を理解しない人々に大きな警戒心を抱いたり、またサゴー・カレン語を話しても外部者を全く受け付けないという村もあったりしました。PWJ現地職員のカレン人フィールド・アシスタントのセイロンは、サゴー・カレン語が母語ですが、「最初の調査では村人は挨拶さえしなかった」と語ります。

長年にわたる争いで外部者を信頼できなくなってしまった人々の村に何回も訪問を重ねるうち、少しづつ打ち解けることができ、ついに話ができるようになっていったということは、ミャンマー民族紛争の歴史が生んだ象徴的な例かもしれません。

また、カレン州はほとんどが農村で社会インフラが整っていません。橋のない川を4WDで突進したり、舗装されていないガタガタ道を進むこともしばしばです。このような道は、少し雨が降るとドロドロにぬかるみ、通行が非常に難しくなります。車で進むことが困難な場所にはバイクで向かいます。バイクでも雨季には通行困難となる村も多くあります。

第1期の事業中は乾季で到達できた村も、雨季の現在、訪ることのできない場所が多くあります。「事業実施で困難だったのは現場への移動だった。事業地はほとんどが未開拓地なので、乾季であっても到達が大変だった」とセイロンは振り返ります。



事業地への道中

困難が多いからこそ達成感も大きい

このような困難に直面しながらも、ミャンマーのスタッフチームは力を合わせ、2014年6月の第1期事業終了までに、16村24カ所で手掘り井戸・管井戸の修繕と新規建設を行い、11,854名が安全な水を飲めるようになりました。また、井戸の建設・修繕に加え、安全な水の管理や衛生知識の普及のための講習を、子供355名、大人274名に対して実施しました。困難が多いからこそ、達成感もひとしおです。

現在、事業は第2期に入っていますが、雨季であるため、水のニーズ調査のために訪問できる村は非常に限られています。そのため、水ニーズの調査票や、衛生知識講習や建設した井戸を村人自らが管理していくための井戸管理講習の教材などを精査し、改善する作業を行っています。雨季終了後、速やかにフル活動するための準備期間です。

第2期では17カ所での井戸修繕・建設に加え、高地での重力を利用した流下式給水施設の建設も計画しています。現場のニーズと状況にあった適切な施設で、より効果的に安全な飲料水を供給することを目指しています。



伝統的な竹の容器で水をくむ人々

土曜日が雨だと一週間ずっと雨?!

現在ミャンマーは雨季の真っ只中です。雨量は半端でなく、日本なら大雨と思う雨は普通の雨で、滝のように白くなり視界がなくなるほどの大粒の雨が、ミャンマー基準の豪雨だそうです。ミャンマー基準の普通の雨でも、降雨音で話し声もテレビの音も聞こえず、道路は川と化すのですが。そんなミャンマーの雨季、土曜日に雨が降ると、その先1週間は連日雨との言い伝えがあります。そんな馬鹿な!と思いましたが、今のところ本当に雨です!さすが、経験に基づいた現地の知恵ですね。

僕はカレン人。カレンの人々のために働きたい。 PWJ現地職員 セイロン

「PWJは支援先をカレン州に集中させ、事業も水・衛生事業に特化していたので、ここで働きたいと思いました。安全な飲料水はカレン州にとって非常に重要なことです。第1期事業が終了しましたが、PWJは事業資金を無駄なく有効に使っていると感じられ、嬉しいです。現場で、支援を受ける人々と接している時も、とてもやりがいを感じます。これからも、教育の機会が少ない村の人々が衛生などの知識を得て生活を向上する手助けができるよう、頑張ります」

セイロンはPWJのスタッフになるまでも一貫してカレン州の人道支援に取り組んできましたが、外国人との勤務は皆無だったそうです。今回、PWJで初めて日本人と密に仕事をし、日本人が親しみやすく臨機応変ということが分かり、「気取って得意げ」という以前の日本人への偏見が完全に変わったそうです。(PWJは間接的に日本理解促進の役割も果たしていました!)



子供たちに衛生講習を行うセイロン

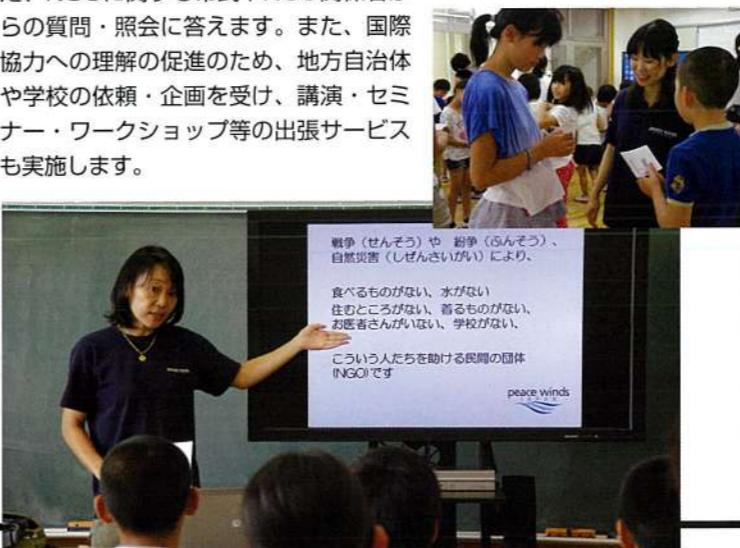
お知らせ

平成26年度NGO相談員の委嘱を受けました



PWJは、昨年度に引き続き、外務省より「平成26年度NGO相談員」の委嘱を受けました。

NGO相談員は、NGOの国際協力活動、NGOの設立、組織の管理・運営といった、NGOに関する市民やNGO関係者からの質問・照会に答えます。また、国際協力への理解の促進のため、地方自治体や学校の依頼・企画を受け、講演・セミナー・ワークショップ等の出張サービスも実施します。



- 6/11 河北新報に東北支援事業(住民の活動拠点建設)が掲載
- 6/28 時事通信がPWJイラク国内避難民支援、PWJ深川のコメントを配信
- 雑誌「WEDGE」6月号に災害支援に関する代表理事 大西のコメントが掲載
- 8/1 朝日新聞にPWJが神石高原町で初開催したサマーキャンプが掲載
- 8/8 朝日放送「こんなところに日本人」で東ティモール事業、PWJ 永井が紹介
- 8/5 中国新聞に中国雲南省地震・PWJスタッフ派遣が掲載
- 8/10 NHKニュースで中国雲南省地震の緊急支援活動が紹介

メディア掲載報告



イラク国内避難民支援で取材を受けたPWJ深川

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。



ご不要なハガキ・切手・本・CD等を支援にお役立てください

書き損じの官製ハガキや未使用の切手をPWJへお送りください。少量でも、どんなに古いものでも結構です。ハガキは交換して得た資金をPWJの支援活動に活用いたします。受領証が必要な方はその旨お書き添えください。

送り先:〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-19
ツボヤビル2F
ピースウィンズ・ジャパン東京事務所 ハガキ寄付係

ご不要の本やCDは、無料集荷にて回収し、ブックオフが査定した金額がPWJへの寄付となります。お申込みは下記HPから、またはお電話にてご連絡ください。

<http://peace-winds.org/support/book.html>
フリーダイヤル0120-252-176

【郵便振替】

口座番号: 00160-3-179641

加入者名: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等(東日本大震災の場合はその旨)を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 青山支店

口座番号: 普通 1671932

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 桜新町支店

口座番号: 普通 6723184

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合などはご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分からかねますので、領収書を発行できません。